

出雲市男女共同参画まちづくり推進事業【出雲市】

個別事業費	1,652 千円
交付金額	826 千円

地域の実情と課題

○性別役割分担意識に否定的な人の割合(H28:61.7% ➡ R2:71.7%)

「性別で役割分担をするべきではない」と思う人が年々増えてきています。今後、各年代に合わせた取組を今後も行う必要があります。

○地域・家庭・職場での男女の平等感

地域・家庭・職場での男女の平等感は年々増えていますが、どの分野も40%弱でまだまだ啓発や各種取組が必要です。

○女性は家庭を優先すべきという考えに肯定的な人の割合(H28:27.3% ➡ R2:41%)

男性の育児・家事等への参画の啓発と働き方改革を含め、事業所へのワーク・ライフ・バランス推進の啓発をより一層進めていく必要があります。

事業の特徴

令和6年度は、地域・職場・家庭全てに向け、男性の育児休業取得の促進のための男女共同参画研修会を行い、ハラスメント防止や働きがいのある職場づくりをテーマにした企業向け出前講座も実施しました。また、出雲市男女共同参画センターや平田ふれんどリーハウスを中心に女性活躍推進や男女共同参画、男性の育児・家事参画の啓発に係る講座を行い、教育現場については、アンコンシャス・バイアスをテーマとした研修を実施し、男女共同参画の意識づくりを促進しました。

特に、市内事業所へワーク・ライフ・バランスの機運の醸成を図ることを目的としたイクボス宣言事業は、出雲地区雇用推進協議会と共に「イクボスセミナー」を開催し、イクボス及びワーク・ライフ・バランスの推進について啓発を行い、さらに実践的な各社の課題解決につながる具体的な取組手法を学ぶ3回シリーズの「イクボス養成セミナー」や、推進に取り組む企業の実践に向けアドバイザー派遣を実施しました。

事業の効果

【効果検証の概要】

事業効果については、市長が委嘱する出雲市男女共同参画推進委員会での年次報告のほか、民間事業者との意見交換、各講座・セミナーのアンケート、イクボス宣言更新時の報告等により検証しています。

【数値目標】

- 男女共同参画出前講座の参加者数 目標値:400人 ➡ R6実績:1,138人
- ワーク・ライフ・バランス研修(企業向け出前講座)の事業実施数(R4～R7:4年間) 目標値:20事業所 ➡ R6実績:18事業所(R4～R6)
- イクボス宣言登録企業数(R9年度末) 目標値:50事業所 ➡ R6実績:36事業所

目的・目標

「第5次出雲市男女共同参画のまちづくり行動計画」の基本目標

I 男性も女性もあらゆる分野で活躍できる社会づくり、II 人権が尊重され安全安心に暮らせる社会づくり、III 推進体制の整備

【数値目標】

- 男女共同参画出前講座の参加者数 目標値:400人
- ワーク・ライフ・バランス研修(企業向け出前講座)の事業実施数(R4～R7:4年間) 目標値:20事業所
- イクボス宣言登録企業数(R9年度末) 目標値:50事業所

連携団体

出雲地区雇用推進協議会、商工会議所、商工会 他

出雲市男女共同参画のまちづくりネットワーク会議

【ネットワーク会議の構成団体】商工会議所・商工会・関係団体・各事業所・個人等

【事業内容】事務局は出雲市男女共同参画センターが持ち、女性活躍推進に関わる事業を市と協働で実施

≪令和6年度≫イクボスへの理解とワーク・ライフ・バランス推進及びハラスメント防止の「イクボス活用セミナー」を開催しました。また、「出雲産業未来博」で、ブース出展し、家事クイズを行い、SDGsの目標5「ジェンダー平等を実現しよう」に関連して、ジェンダーの正しい知識と男女共同参画の啓発を行いました。

今後の課題

○事業の更なる推進

令和4年度から始まったイクボス宣言事業を一層進めるため、市内各地へワーク・ライフ・バランスの機運が醸成されるよう、引き続き関係団体と連携して、事業所や企業等へ働きかけを行うとともに、3年ごとの更新が着実に進められ、継続した取組を実施してもらうよう啓発していきます。また、イクボスの概念を、短時間で経営者・管理職層に向けて、いかに的確に説得力を持って伝えるかが課題です。

○新たな地域や事業所への働きかけとニーズをとらえた講座内容

これまで出かけた地域や事業所の整理・把握を行い、まだ一度も出前講座を実施できていない地域や事業所へ向けて働きかけます。また、各種研修会への参加や情報収集等を通して、ターゲットとする世代やニーズにあった講座の開催、効果的な広報等を実施することを目指します。

事業の概要

地域・職場・家庭

男女共同参画講演会

「男の育休でジャンボ宝くじを必ず当てる方法？」 ～笑って考えるワークライフバランス～」

《概要》

子ども同伴を可として、東京大学大学院教授の瀬地山角氏にご講演いただき、地域・家庭・企業全てに向けて、男性の育児休業取得の促進につながる内容の講演を実施し、女性活躍・ワーク・ライフ・バランスの促進に向けた意識の改革を行いました。



～参加者の声～

- ・男性の育休で宝くじを当てるということがどういう意味なのか講義を受けて分かった。男性の家事・育児の大切さを実感した。
- ・社会の常識について、講師に言われて、改めておかしい、合理的ではないと思えることがたくさんあった。
- ・家事は「手伝う」ものではないという考えは、確かにそうだなと思った。無意識に育児は女性のものという考え方になっていた。

イクボス宣言の推進

《概要》 令和4年度に、「ワーク・ライフ・バランス」いわゆる「仕事と私生活の両立」の推進のため、市長と市内関係団体の代表者で「イクボス宣言」を行い、その推進に取り組んでいます。これまでセミナー開催時の集客に苦慮していたため、令和6年度は、出雲地区雇用推進協議会と共に、イクボスセミナーを開催し多くの企業に参加いただき、「イクボス」の理念と市の取組について、広く啓発することができました。また、実践的な各社の課題解決につながる具体的な取組手法（課題抽出、改善案策定、実施後の検証）を学ぶ3回シリーズの「イクボス養成セミナー」や、推進に取り組む企業への後押しとなるよう実践のための「アドバイザー派遣」も実施しました。これらの取組から、イクボスに積極的に取り組む「イクボス宣言」を行う企業等の拡大に繋がりました。

企業向け出前講座



《概要》

従業員の働きやすい職場環境をつくること、離職防止や人手不足解消の鍵となることから、誰もが安心して働きやすい職場づくりのため、企業・事業所へ無料で講師を派遣する出前講座を実施しました。申込団体と協議し、「働きがいのある職場」「アサーティブコミュニケーション」「ハラスメント防止」をテーマに6事業所で講座を開催し、ワーク・ライフ・バランスの推進を図ることができました。

～参加者の声～

- ・改めて働きがいや働きやすさについて、考える事が出来て良かったです。
- ・誰もが働きやすい会社となるように、一人ひとりが正しい認識をもって、お互い認め合いながら、自分たちでよい会社、よい組織をつくることの大切さが分かった。
- ・アンコンシャス・バイアス、決めつけてしまっていることが多々あるため、自らの言動を今一度見直していきたい。

企画講座



《概要》

女性が自分らしい選択・決断・行動を重ねる生き方や男女共同参画社会を支えるために自身の身体のセルフケアの大切さを学び、女性活躍や男女共同参画についての啓発を行ったほか、父と小学生の子や料理初心者男性向けの料理教室を開催し、家事・育児分担等の意識改革につなげる啓発を行いました。

～参加者の声～

- ・「ジェンダー」の意味を初めて意識しました。
- ・子どもに野菜を切らせてみたらある程度できることがわかった。今後は一緒に料理を作ってみる。
- ・普段から家事はしているが、料理については妻に任せきりでいる。今日の講座に参加して、料理もやってみようと思った。



～参加者の声～

- ・イクボスの「イク」は、育児だけではないと知っていたが、あまり深く知らなかった。本日のセミナーで、更にくわしく知ることができて大変勉強になった。
- ・社員とのコミュニケーションが改めて大切であると認識する事が出来た。信頼される管理職を育成する＝イクボスを育成する事で働きたい働き続けたい会社になるよう努めていきたい。
- ・これまで意識してなかったことに気づかされた。
- ・セミナーに出る意味を再確認した。課題と向き合うことで会社全体が見えてきた。向き合うことを恐れずにしたいと思う。
- ・他の会社の取組事例を参考にし働きやすい会社をつくっていかうと思った。
- ・取り組もうとしていることの方向性は間違っていないことを確認できた。実践する上での方策も教えて頂けた。